



銀のたまご

VOL. 23

令和5年8月1日号



特集
シルバーセカンドライフ

仕事と趣味で悠々自適

安全を見守る

JR・京成成田駅エスカレーター等運行管理業務
(JR成田駅西口エレベーター室で)

＼ 高齢者が働くことに生きがいを感じ、地域社会に貢献する /
公益社団法人 成田市シルバー人材センター

特集

シルバーセカンドライフ

仕事と趣味で悠々自適

第二の人生といわれる定年退職後を、シルバー人材センターで仲間と楽しく働き、自由な時間は趣味に費やす。そんな充実した生活を送るシルバー会員を訪ねた。





春蘭に水をやる山田民雄会員(玉造)

シルバー入会を機に理想のセカンドライフを実現

シルバー人材センターへ入会して6年目となる山田民雄会員、現役時代は消防署に勤務し、レスキュー隊員として活躍していた。実家が山口区の農家で、若いころから仕事の合間をみて農作業の手伝いをしていた。その時の草刈の経験を生かし、現在はセンターの除草班に所属している。一方で、30年前から始めた春蘭栽培は、貴重品種の育成や新品種の発見で多くの人にその名を知られ、市内愛好家をつくる成田愛蘭會の会長を務めている。

シルバー人材センターの除草班で働くことで地域社会に貢献し、その傍ら春蘭栽培で自分だけの自由な時間を楽しむ。センターに入会することでそんな理想的なセカンドライフを実現している山田会員の話を聞くことができた。

庭で800鉢の春蘭を栽培

地図を頼りに成田ニュータウン玉造地区の自宅を訪ねると、庭で植物

仕事 感謝の言葉と笑顔にやりがい

先輩に声を掛けられ除草班に入会

住宅地にある自宅には、仕事で使



軽トラックと道具は実家に保管

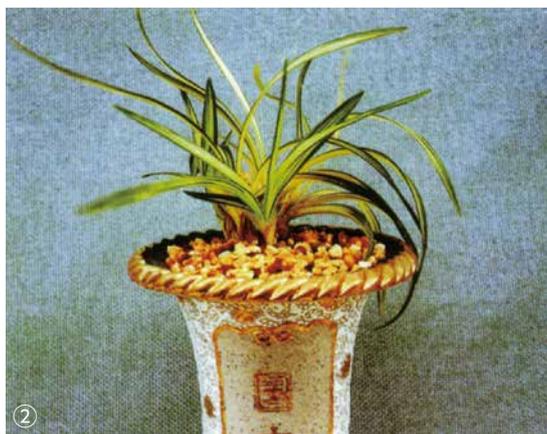
の手入れをしていた山田会員が笑顔で出迎えてくれた。敷地内に栽培用の施設(小屋)があり、周囲とは明らかに景観が異なっていたので現地です迷うことはなかった。

庭には栽培に使う鉢や用土が置かれ、遮光用の寒冷紗の掛かった小屋の中には約800鉢の春蘭が整然と並んでいた。小屋の中に案内しながら、シルバーでの仕事のこと、趣味の春蘭栽培のことなどについて話してくれた。

う軽トラックもなく草刈り機も見当たらない。不思議に思いながら入会のきっかけなどについて尋ねた。

特集

シルバーセカンドライフ



①春蘭の植え替え
 ②厚生労働大臣賞を受賞した「国宝」
 ③印西市で発見した新種の春蘭
 ④赤い豆のような花弁を持つ春蘭

「シルバーの除草班で働いていた消防署時代の先輩から声を掛けられ入会を決めました。若いころから実家の周りの草刈りなどをしていたので心配はありませんでした。軽トラックや刈払い機など草刈りに必要なものは全て車で3、4分の山口区の実家においてあります」と話す山田会員。話を聞いた後で案内された実家の車庫には刈払い機など除草作業に必要な道具が満載された軽トラックが停められていた。これを見て当方の疑問も無事解決した。

草の刈り方を練習

シルバー除草班の仕事は何人かで現場へ行き作業をする。足場の悪いところは体力に自信のある会員が行うなどお互いに協力し、助け合いながら作業にあたる。斜面や窪地などは比較的若い山田会員の出番となる。「草刈りの自信はあったんですが、先輩たちのようにきれいに刈ることが出来ませんでした。自宅ですべてやっていた草刈りではそんなことまで考えませんでしたから」と刈り方を手振りで示しながら、「それから先輩に教えてもらったたり、自分では先輩に教えてもらったり、自分で研究したりして刈り方を練習しました。まっすぐに刈る方法、刃の角度、コンクリート塀の下の刈り方などいろいろ勉強しました。お陰で今では

どんな場所もうまく刈れるようになりました」(山田会員)

どのような仕事に対しても妥協しないという姿勢は消防時代も今も変わらないという。

コミュニケーションを心がけて

除草作業は、刈る場所によって細心の注意が求められる。荒地や駐車場では飛び石が発生し、工場敷地や庭などは構造物や刈る範囲などに注意が必要となる。

「荒れた農地の草刈りは比較的簡単ですが、植木やいろいろな植物のある庭は特に気を使います。大切な花の芽などを切らないよう、事前に刈る範囲や刈り方を依頼者と細かく打ち合わせをします。常にお客さんとコミュニケーションを取りながら仕事をするを心がけています」(山田会員)

自らも春蘭をはじめ様々な植物を育てている山田会員、時にはお客さんに花木の栽培方法をアドバイスすることもあるという。「草刈りもそうですが、自分の技術や知識が人のために役立つと本当にうれしいですね。満足のいく仕事をした後でお客様からいただいた感謝の言葉とその笑顔を見たときに一番やりがいを感じています」と嬉しそうに仕事への思いを話してくれた。

趣味 春蘭に魅せられて30年

始まりはサツキから

山田会員が成田市の消防署に就職した昭和40年代は、大変なサツキブームで職場の先輩や同僚に誘われるままに盆栽づくりを始めたといい。「実家が農家だったせいも植物の栽培が好きでしたから、職場のサツキ研究会に入り鉢数を増やしていきました。ところが消防隊員という仕事柄、水かけが思うようにできず枯らしてしまうこともありました。そんな時、水やりの少なくて済む春蘭に出会い、その魅力にすっかり取りつかれました」と、話す山田会員。1株だけ残した庭の地植えのサツキを見ながら当時の大ブームの様子と春蘭栽培を始めたきっかけについて話してくれた。

自生する春蘭に新品種が

「私の友人の伯父さんに、多くの春蘭の品種登録をしていることで有名な中島五郎さんがいて、そこを訪ねたことが春蘭栽培を始めたきっかけです。いろいろな種類の春蘭を見せていただきましたが、それらが山で採れたものだとして本当に驚きました」と、当時を振り返りながら話す山田会員。その時に分けてくれ

た春蘭は今でも大切に育てているという。

「春蘭は青森から九州に至るまで日本の広い範囲で自生しています。そこで自然に交配して様々な色や形のもので生まれますから、山に行き新しい品種を探すことも春蘭の魅力です」と、1枚の写真を取り出しながら「これは20年前に印西市で採取した新種の蘭です。山に入り何分もしないで見つけたので、一緒に行った友人も驚いていました。山の中で新しい種類を探し出したときは何ともいえない気持ちでした」とその時の様子を話す山田会員。今その場所は大きな病院の駐車場になっているという。

春蘭で生まれる新たな交流

「これまで日本各地へ山採りに出かけ、いくつもの新しい種類の春蘭を見つけました。遠くへ行き、現地での愛好家と交流を深めることもあり、それも春蘭の魅力ですね。青森の愛好家は、わたしのいる成田愛蘭會に入会してくれて交流を続けています」(山田会員)

愛好家の集まる会が毎月どこかで開催され、そこで品種の紹介や栽培

方法についての情報交換などが行われるという。

「春蘭は花を楽しむものと、葉の形や模様を楽しむものがあります。どちらの品種も、その色と形がポイントになります。良い春蘭をつくるには、その品種に合った栽培方法があつて、失敗すると良い花にも葉にもなりません。最初は枯れなくて育てやすいからと始めましたが、今では春蘭の奥深い魅力にはまっています」(山田会員)

厚生労働大臣賞を受賞

「ひとつの芋(根)から大会に出品するような作品を作るには6〜8年

もかかります。春蘭は辛抱草といわれますが、愛情をかけて育てた『国宝』という品種が厚生労働大臣賞に選ばれたときは本当にうれしかったですね」と、笑顔で全国大会の賞状や記念品を見せてくれた。成田愛蘭會の会長も務めているため、シルバリーの草刈りシーズンには特に忙しいと話す。

「人と話すことが好きなのでシルバリーの仕事も趣味もどちらも楽しくやっています。幸い体力には自信があるので、草刈りで適度に体を動かしながら、春蘭栽培を究めたいと思います」(山田会員)

もうひとつの趣味

取材中変わった収集物を見せてくれた。引き出しの中から取り出した箱の中には、縄文・弥生時代のものと思われる矢じりや斧、勾玉まがたまなどが数十点ほど納められていた。山田会員が中学生のころに集めたもので、見つけた場所と日付も書かれていた。「成田ニュータウンは以前は山や畑で、その中に古墳や遺跡が点在していました。その頃、畑の中で光るものを見つけると大体石器で、土器もたくさんありました。畑の持ち主は興味がなかったようで、逆に拾ってほしいと言われました。自分の子どもが小学生のころ学校に貸し出したくらいで普段はしまったままです」と話す山田会員。

春蘭に限らず物を集めることが趣味のようだ。



収集した石器や勾玉

令和5年度 定時総会を開催



飯田理事長が議長となり議事を進行

成田市シルバー人材センターの令和5年度定時総会が、6月12日、午後2時より赤坂ふれあいセンター大会議室において小泉一成成田市長、神崎勝成田市議会議長を来賓に迎え、委任状を含めた会員372名の出席のもと開催されました。

議長には、定款第16条の規定により飯田幸雄理事長が選出され、4件の報告事項に続き議案3件が審議されました。

議事

報告事項

1. 令和4年度収支補正予算の件
2. 令和4年度事業報告の件
3. 令和5年度事業計画の件
4. 令和5年度収支予算書等の件

議案第1号

令和4年度貸借対照表・損益計算書及び財産目録承認の件、監査報告

議案第2号

公益社団法人成田市シルバー人材センター役員報酬等及び費用に関する規程の一部改正について

議案第3号

理事1名選任の件及び監事1名選任の件

提出された3議案は出席会員多数の賛成によりすべて原案のとおり可決され総会は無事終了しました。

また、議事終了後シルバー祭り2023の日程等について会員より質疑があり、本年10月20日(金)、21日(土)に成田市文化芸術センターで開催を予定しているとの回答が事務局よりありました。



活動報告

空港周辺美化活動

5月19日、好天のもと空港周辺道路美化活動が開催されました。この催しは、なれた環境ネットワークが年2回実施しているボランティア活動で、市内の企業などから毎回多くの団体が参加しています。

この日、本センターからは理事・職員6名がシルバーのPRも兼ねてオレンジベストを着て参加。5月のさわやかな気候の中、「ホテルマイステイズプレミア成田」付近から「成田東部ホテルエアポート」付近に至る国道295号の歩道部分約3kmの間を、ごみ袋やトンクを手に清掃活動に汗を流しました。



歩道のゴミを拾う参加者

地域班活動



小学校の草刈

本センターでは、会員と地域の結びつきを深め、シルバー事業運営を円滑に行う目的で地域班が組織されています。それぞれの班では会員同士の横の繋がりを活かしたボランティア活動なども行われています。

活動内容は各地域の小学校や保育園の環境美化活動、公津の杜駅周辺の清掃、成田駅及び公津の杜駅周辺の防犯パトロール、各地域で行われる福祉施設などのイベントの手伝いなどです。

特に小学校の環境美化活動には、センター除草班・植木班に所属する会員も多数参加しているため、校庭の隅々まで手入れが行き届き、毎回学校から感謝の言葉が寄せられています。

会員紹介

「仕事もボランティアも充実」

坂井 良子さん(新町)



わたしはシルバーに入会して14年目になりました。新しいお友達が欲しいと思い、説明会に参加したところ、会場にいた初対面の人に一緒に入ろうと誘われたこともあり入会を決めました。

入会までの勤務経験は、お菓子工場で24年、機内食の盛り付けの仕事が6年です。シルバーでは今まで全く経験のなかった清掃の仕事をしています。始めはとまどいの部分もありましたが、清掃をしてきれいになったところを見ると、とてもやりがいを感じますし、お褒めの言葉をいただくのとさらにやる気が出てきます。

就業以外では、シルバーのボランティア活動や女性部会の活動に積極的に参加しています。参加すること

で、新たな出会いもあり、楽しいひと時も味わえます。特に女性部会主催のミシンカフェでは、趣味の手芸を活かすことができ、帽子やベスト、ポシェットなどを製作しました。

シルバー以外では、参道のまちかどふれあい館で、外国から来た旅行者に着物を着付けて、日本の文化に触れてもらうというボランティア活動に参加しています。着物の着付けや、襦袢をリメイクして腰紐などを作ったりと着物が好きだったこともあり、仲間と一緒に楽しく活動しています。また、着物を着て喜んでくれる姿を見るとこちらも嬉しくなり、充実感を味わうこともできます。これからも、楽しみながらセンターの仕事やボランティア活動を続けていきたいと思っています。



着付けのボランティア

サークル紹介

NSCゴルフ同好会

英国発祥のスポーツといえば「ゴルフ」。そのゴルフを通して会員同士の親睦を深めようと令和5年3月10日に牧野春雄会員を会長に、シルバー会員26名で発足した「NSCゴルフ同好会」をご紹介します。

活動は、3カ月に1度、年4回のゴルフコンペの開催とし、発足してから2度のコンペを開催しています。

牧野会長によると「成田市シルバー人材センターの会員同士でゴルフ・懇親会等を通じて懇親を深めていきましたが、コロナ禍の影響は大きくこの3年間はほとんど停止状態でした。ようやく最近はその方針も浸透し日常生活もコロナ前に戻りつつあるので、同好会の発足となりました」とのこと。会則には「成田市シルバー人材センターでの縁を大事

NSCゴルフ同好会

牧野春雄 会長



第2回コンペの参加者

にし、会員相互の親睦を深め幅広い人格の陶冶に努める」と記されています。26名のゴルフ同好会員の就業先は通パト・除草・公民館・清掃・待機駐車場等様々であり、普段は横の繋がりは無いのでまさに「NSCゴルフ同好会」を通じての活動は幅広い親睦・交流につながっているようです。ゴルフはマナーの厳しいスポーツであり、同好会のメンバーもプレーを通じてマナーの遵守と向上を目指しているそうです。同時に、活動を通して成田市シルバー人材センター会員の人格の向上にも寄与したいとのことでした。

わたしの趣味 —陶芸—

小澤 真人 会員(玉造)

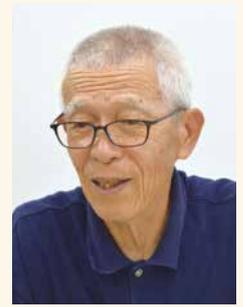
生涯大学で陶芸の基礎を3年、その後囲護台にある陶芸教室で本格的に学び、始めてから8年が経ちました。陶芸には信楽焼など土を使った陶器と有田焼など石が主成分の土を使った磁器があり、現在は磁器を製作しています。絵付をする製作工程は土から成形し、850度で素焼き、絵具を使用し染付



製作した磁器

といわれる下絵付、釉薬^{ゆうやく}をかけ1,230度で本焼き、上絵具で絵を描き800程度の温度で焼き付けて完成となります。

そのほかにも象嵌^{そうがん}という手法もあります。絵付をするのではなく、器の表面を彫り、その彫った部分に色のちがう粘土を埋めてから素焼きをする方法で、細かい作業になりますがこちらも製作しています。絵付ではほこりをきれいに落とすこと、また器の厚みを薄く均等に削る作業がとても重要で、仕上がりに影響があるのでとても気を遣うところです。絵具の色も焼き上がりの色に変化することをいろいろ考えて色を調整しています。作品として出来上がった時の満足感は磁器製作の醍醐味だと思っています。



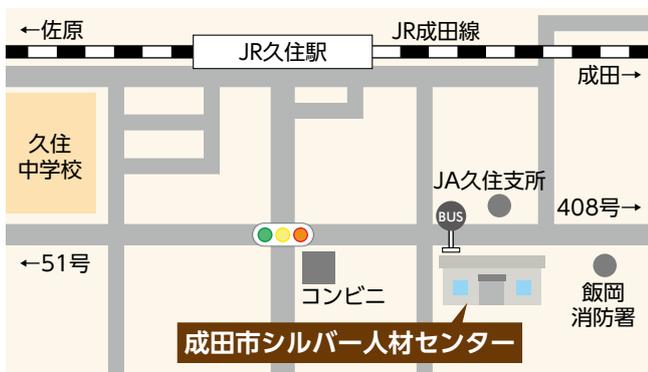
令和4年度 事業実施状況報告

		令和3年度	令和4年度
会員数	男	382人	391人
	女	97人	109人
	合計	479人	500人
就業実人員		421人	450人
就業率		87.9%	90.0%
受託件数	公共機関	480件	474件
	民間企業	814件	878件
	一般家庭	1,737件	1,466件
	合計	3,031件	2,818件
契約金額		196,349千円	196,373千円

契約金額は微増、受託件数は減少

令和3年度と比較すると男女とも会員数が増え全体で約4%の増加となり、就業率も約2%の増加となりました。

契約金額はわずかながら増加しましたが、受託件数は全体では減少となりました。一般家庭の受託件数の271件減少は植木就業会員の減少による早めの受付終了が要因と考えられます。また、民間企業の受託件数は清掃・除草等の委託が増えたことにより64件の増加となりました。



編集・発行 公益社団法人 成田市シルバー人材センター 広報部会

〒286-0819 成田市久住中央1丁目12番地3

TEL 0476-36-6161 FAX 0476-36-6711

http://webc.sjc.ne.jp/narita/index

E-mail: narita@sjc.ne.jp

〈受付時間〉

月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分

(土日・祝日、年末年始除く)



編集後記

特集の取材中、山田会員が中学生の時に集めたという石器や勾玉を見てびっくりしました。玉造地区周辺の畑や道端で見つけたとのことでしたが、そこで思い出したのが以前我が家の庭にあった「敷石」です。ある時、房総の村資料館を見学した際、似たような展示物を見て愕然。敷石は石棺だったのです。父親が「八代の農家から譲ってもらった」と言っていた石は、その後近所のお寺に引き取ってもらい一件落着。当時「千年経っているから祟りはない」と言っていた父。何の根拠もなかったと思えますが、かつての墓の上に造成された成田ニュータウンの賑わいを見ると千年説は正しかったようです。